

野菜の放射性セシウム濃度の経年変化

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

事業名 放射性物質の吸収量の把握
小事業名 野菜の放射性物質の吸収量の解明
研究課題名 三年目の吸収量の解明
担当者 齋藤誠一・小林智之・斎藤幸平

I 新技術の解説

1 要旨

放射性セシウムは降下後時間の経過に伴い土壤に強く保持されることから、土壤からの経根吸収の程度は変化していくことが推測される。

このため、ブロッコリー、キュウリ、コマツナ、サツマイモ、エダマメの5品目の野菜における放射性セシウム吸収の経年変化を調査した。

(1)同一ほ場で栽培した今回供試した野菜類では¹³⁷Cs濃度は年々減少した(図1)。

(2)可食部のTF値は、エダマメを除いて平成24年が平成23年を下回った。また、全ての品目で平成25年が平成23年を下回り、0.00005~0.0037の範囲であった(図2)。

以上のことから、今回供試した野菜類における放射性セシウム濃度及びTF値は経年的に減少し、放射性セシウムの吸収量は少なくなる。

2 期待される効果

(1)野菜類の栽培においては、同一ほ場で栽培を行うと、年々放射性セシウムの吸収量は小さくなる可能性が高い。

3 活用上の留意点

(1)3年間の試験結果である。

(2)同一ほ場で栽培した試験結果である。

(3)本試験の栽培後土壤の交換性カリ含量が20mg/100g乾土以上あることが前提である。

II 具体的データ等

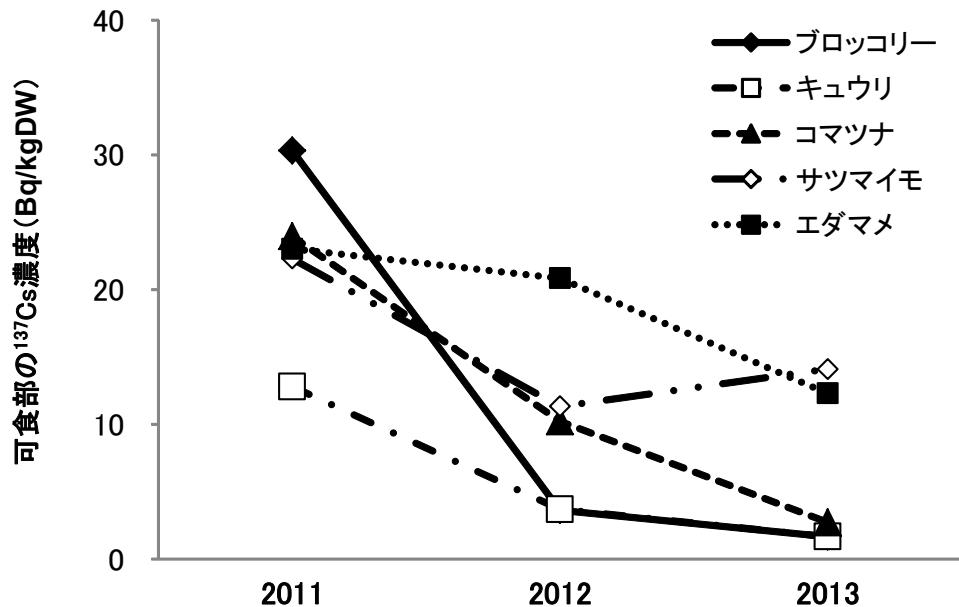


図1 2011～2013年に生産された野菜類の可食部の¹³⁷Cs濃度の推移

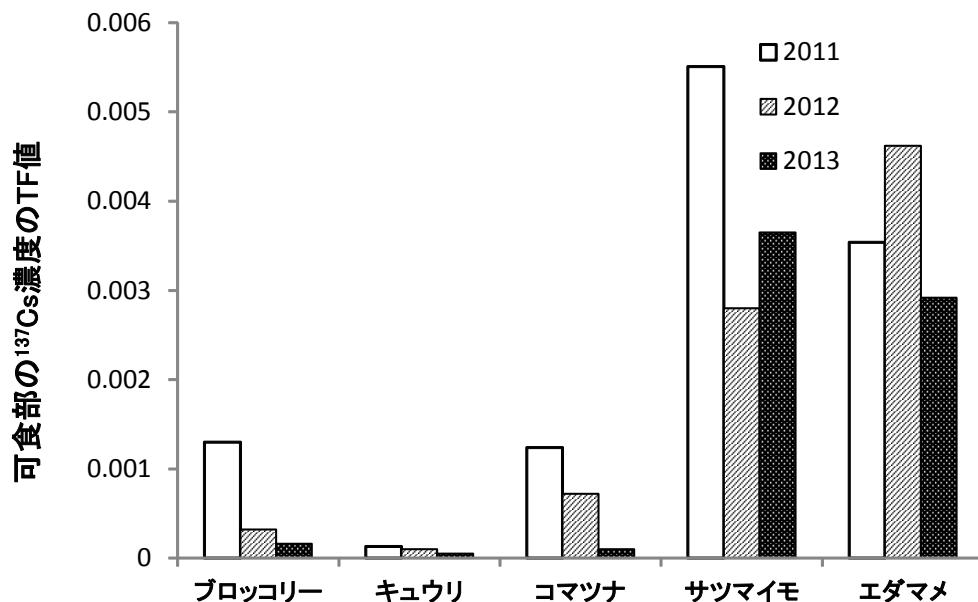


図2 2011～2013年に生産された野菜類の可食部の¹³⁷Cs濃度のTF値

III その他

1 執筆者

齊藤誠一

2 実施期間

平成25年度

3 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度～25年度センター試験成績概要